

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：32617
 研究種目：基盤研究(C)（一般）
 研究期間：2020～2022
 課題番号：20K00060
 研究課題名（和文）新出史料『心根決疑章』の読解を中心とした達磨宗と二祖伝地房覚晏の思想的研究

 研究課題名（英文）Intellectual Research on Daruma sect and Butchibo Kakuan Focusing on a Critical Reading of the Newly Discovered Historical Material, Shinkon ketsugisho

 研究代表者
 館 隆志（TACHI, Ryushi）

 駒澤大学・仏教学部・講師

 研究者番号：70771509

 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、達磨宗新出史料『心根決疑章』の読解を中心とする研究である。共同研究者とともに、3年間、計19回に及ぶ研究会を行い、『心根決疑章』の読解を完了して公表したことが最大の成果である。これにより、覚晏の思想について考察することが可能となった。さらに、金沢文庫所蔵本と国文学研究資料館所蔵本との対校を行い、史料的な評価を確認することができた。これらの成果とともに、関連する研究も多く蓄積できた。特に、著者である伝地房覚晏の足跡を詳らかにし、また覚晏の会下から栄西門流に転派した大猷の心跡を明らかにすることができた。これら蓄積された研究は、今後の日本禅宗研究に大きく資するものとなる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究における伝地房覚晏の著述『心根決疑章』の読解は、達磨宗や覚晏の思想を考察することを可能とならしめる最初の成果であり、日本禅宗史や、日本禅思想史において画期的な視点をもたらすものとなった。さらに、本研究において覚晏撰『一字訣』を新たに発見したことにより、覚晏の思想や達磨宗についてより総合的に研究することが可能となったのである。本研究はJSPS科研費JP23K00053「新出史料『一字訣』の読解を中心とした伝地房覚晏と達磨宗の総合的研究」（基盤研究C、代表者：館隆志、分担者：吉村誠、師茂樹、山口弘江、柳幹康）で継続されることとなる。

研究成果の概要（英文）：This study focuses on a critical analysis of the Shinkon Ketsugisho, a recently discovered text of the Daruma sect. Over a period of three years, we conducted a total of nineteen study workshops. One of the most important outcomes of this collaborative research was the successful completion of a critical reading and the publication of an annotated translation of the Shinkon Ketsugisho. These results enabled us to delve deeper into the intellectual thoughts of Butchibo Kakuan. Moreover, by comparing the text with the collections at Kanazawa Bunko and the National Institute of Japanese Literature, we uncovered the historical value of the material. Consequently, numerous related studies were developed. Notably, we revealed detailed insights into Kakuan's life and shed light on the traces of Daikatsu Ryoshin, who left Kakuan's group to join the school of Eisai. These research findings will make a significant contribution to future studies on Japanese Zen Buddhism.

研究分野：日本禅宗史・日本禅思想史

キーワード：達磨宗 日本禅宗史 伝地房覚晏 心根決疑章 大日房能忍 曹洞宗 臨済宗 道元

1. 研究開始当初の背景

達磨宗は日本禅宗の先駆となった極めて重要な一派であり、後に伝来した臨済・曹洞両宗にも影響を与えた。ところが早くに廃れたため、その祖大日房能忍の著作は残っておらず、一派の実態も長らく不明であった。そのような中、後継者たる仏地房覚晏の自著『心根決疑章』が発見されたことで、その思想を直接研究することが初めて可能となった。

禅宗伝来当時、達磨宗と臨済・曹洞両宗の關係は密接であった。臨済宗を伝えた栄西は、先行する能忍と思想的な決別を目指し著作を編んでいる。その栄西のもとに学んで入宋し、曹洞宗を伝えた道元のもとには、覚晏の門弟、すなわち達磨宗の徒が集い、その教団の礎を築いた。伝来当初の禅宗の展開を知る上で、新出史料の『心根決疑章』、ならびにその著者覚晏の事績を分析することは、不可欠の作業と言える。

達磨宗の研究において、これまでに大きな契機となる研究が幾つか存在している。その最たるものが、高橋秀栄によって発見紹介された旧三宝寺所蔵史料「正法寺文書」である(高橋秀栄「三宝寺の達磨宗門徒と六祖普賢舎利」、『宗学研究』26、1986年)。その後、この成果を用いた研究が積み重ねられていった。

また、石井修道によって金沢文庫所蔵の達磨宗関連史料『成等正覚論』が達磨宗典籍として紹介されたことも大きかった(石井修道「仏照徳光と日本達磨宗 金沢文庫保管『成等正覚論』をてがかりとして(上・下)」、『金沢文庫研究』20-11、1974年)。さらに近年、真福寺文庫より『禅家説』という典籍が発見され、そこに能忍の名が記されていたこともあり(末木文美士・和田有希子『『禅家説』解題』、『中世禅籍叢刊』第3巻『達磨宗』、臨川書店、2015年) 達磨宗に関する研究は近年再び盛んになったのである。

このような研究動向の中、申請者は2018年11月に達磨宗の新出史料である『心根決疑章』の鎌倉末期の写本を金沢文庫より発見した。本史料は承久元年(1221)に仏地房覚晏が撰述したものであり、覚晏は「扶桑第二相承沙門」と自述していた。日本の禅宗二祖を自称していたのであり、禅僧として執筆した著述であることが確認された。

これまで、達磨宗に関連する書物と推定される著書は『成等正覚論』『禅家説』をはじめとしていくつか紹介されてきたが、達磨宗僧侶が著述したことが確定できる書籍の発見ははじめてのことである。しかも、これまでは、日本における禅籍とすれば、栄西の『興禅護国論』(1198年)が最初であり、その次が道元の『普勸坐禅儀』(1227年)と考えられてきた。しかし、覚晏の『心根決疑章』(1221年)は栄西と道元の間位置づけられるものであるから、『心根決疑章』は日本における二番目に古い禅籍の発見となったのである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、達磨宗仏地房覚晏の撰述した『心根決疑章』の詳細な読解を行い、その内容をさまざまな研究領域から考察し、仏地房覚晏の思想について考察するものである。その考察を通して、達磨宗の思想や、曹洞宗に吸収されていく歴史的な背景を明らかにしたい。さらに、当時の顕密仏教や、栄西、道元などの禅僧との比較を通して、日本中世初期における禅宗の受容と展開を明らかにすることを目的としている。

従来の達磨宗研究では、周辺史料から達磨宗の思想を解き明かそうとしている。それに対し、本研究は達磨宗の仏地房覚晏の著述『心根決疑章』をもって、覚晏、ならびに達磨宗の思想を解き明かそうとするものである。また本史料が、日本で二番目に古い禅籍であることそのものが有意義であり、本史料の詳細な読解と分析によるアプローチは、これまでの達磨宗研究とは全く異なると言える。そして、その結果として得られる成果は、日本禅宗の展開や、日本仏教における禅受容の解明に新たな視座を提供するものとなる。

3. 研究の方法

本研究は達磨宗新出史料『心根決疑章』の読解を中心とするものである。とくに、本書は『首楞嚴経』、『円覚経』、『俱舎論』、唯識説、『宗鏡録』、天台宗など数々の経典を用いて、禅の「心」を解説しようとした書物と考えられる。そのため、研究代表者の館隆志と、各分野の専門家である共同研究者の吉村誠、師茂樹、山口弘江、柳幹康とともに、研究会を開いて読解を進めていくことが中心的な研究方法となる。3年間計19回に及ぶ研究会を開催し、『心根決疑章』の読解を完了することができた。

この読解の成果を踏まえつつ、仏地房覚晏の足跡やその思想について調査し、さらに関連の研究を積み重ねることで、日本仏教、日本禅宗における達磨宗や覚晏の位置づけについての研究を行うことができた。

4. 研究成果

本研究は、達磨宗新出史料『心根決疑章』の読解を中心とする研究である。本研究の成果は以下の通りである。

【2020年度】

本研究は、達磨宗新出史料『心根決疑章』の読解を中心とする研究である。『心根決疑章』は達磨宗二祖の仏地房覺晏の著述であるが、『首楞嚴經』『円覚經』などの經典、俱舎や唯識・天台などの教理、ならびに禅宗の一大哲学書たる『宗鏡録』百巻など、各種各様の文献・教理を引用しており、その内容は極めて難解である。

そこで、これらの各専門家に協力を仰ぎ会読することで、その思想の読解を目指すものである。さらに、その成果を用いた研究を行い、日本禅宗の展開や、日本仏教における禅受容の解明に新たな視座の構築を目指した。

東京・駒澤大学と、京都・花園大学で、それぞれ『心根決疑章』読解の勉強会を行い、研究を行っていく予定であった。しかしながら、コロナ禍による緊急事態宣言の発令を受け、状況が落ち着くまで各自で研究を蓄積することとした。

そして、状況が落ち着いたことを確認し、9月9日、9月25日、10月9日、11月13日、12月11日にオンライン（zoom）で、研究代表者の館隆志と、吉村誠、師茂樹、山口弘江、柳幹康の5人で研究会を開催した。当初2ヶ月に一度の計5回の研究会を予定していたが、年度後半からではあったが予定通り計5回の研究会を行うことができ、全体の3分1を読解した。

また、この読解を踏まえた成果として、研究代表者は「達磨宗新出史料『心根決疑章』と仏地房覺晏」（『駒澤大学仏教学部論集』51、2020年）を発表した。さらに、宗教誌『中外日報』誌面の「論」で、「達磨宗新出史料『心根決疑章』の発見」と題して発表し、現在の研究状況について広く公表することができた。

【2021年度】

本来、東京・駒澤大学と、京都・花園大学で、それぞれ『心根決疑章』読解の勉強会を行っていく予定であったが、コロナ禍の状況を踏まえてオンラインでの勉強会を継続した。2021年6月11日、7月23日、9月10日、10月2日、2022年2月25日にオンライン（zoom）で、研究代表者の館隆志と、吉村誠、師茂樹、山口弘江、柳幹康の5人で研究会を開催し、予定通り計5回の研究会を行うことができ、全体の3分1を読解した。

また、前年の読解を踏まえた成果として、館隆志、吉村誠、師茂樹、山口弘江、柳幹康「達磨宗・仏地房覺晏『心根決疑章』訓註（上）」（『駒澤大学仏教学部論集』52（127-156 2021年10月））を刊行し、駒澤大学学術情報リポジトリに登録された。この他、『中世禅の知』（末木文美士監修、臨川書店 2021年7月）において、「達磨宗新出史料『心根決疑章』の発見」を掲載し、『心根決疑章』の発見を広く紹介することができた。

金沢文庫本の異本である、国文学研究資料館所蔵『心根決疑章』を紹介し、「国文学研究資料館所蔵『心根決疑章』について」（『駒澤大学佛教学部研究紀要』80、109-130p、2022年3月）を発表した。

特筆すべき成果として、令和3年（2021）10月28日に、貞応元年（1222）に「覺晏」が重刊したものに基づく三千院円融蔵所蔵『一字訣』を調査した。調査の結果、『一字訣』は仏地房覺晏の著述であることが判明した。覺晏『心根決疑章』の研究が呼び水となり、新たに達磨宗史料を発見することができたのである。

【2022年度】

前年の読解を踏まえた成果として、館隆志、吉村誠、師茂樹、山口弘江、柳幹康「達磨宗・仏地房覺晏『心根決疑章』訓註（中）」（『駒澤大学仏教学部論集』53（2022年10月））を刊行し、駒澤大学学術情報リポジトリに登録された。

コロナ禍の状況を踏まえてオンラインでの勉強会を継続した。2022年度は（2021年5月7日、6月24日、9月30日、11月25日、12月23日、2022年2月3日、2月10日、3月10日、3月31日）に、研究代表者の館隆志と、吉村誠、師茂樹、山口弘江、柳幹康の5人で計9回の研究会を行うことができ、残りの3分1を読解した。この成果は、2023年度中に、駒澤大学学術情報リポジトリに登録予定の論文、館隆志、吉村誠、師茂樹、山口弘江、柳幹康「達磨宗・仏地房覺晏『心根決疑章』訓註（下）」（『駒澤大学仏教学部論集』54（2023年10月予定））として発表する予定である。

このほか、読解の成果を用いた研究として館隆志「般若房法印大歇了心について」（『東アジア仏教研究』20、2022年）を発表した。

研究期間全体を通して言えば、『心根決疑章』の読解を完了したことが最大の成果と言える。この読解を通して、仏地房覺晏による『首楞嚴經』を中心的な典籍とした思想的な獨創性が浮かび上がってきたことも重要である。仏地房覺晏は、同時代の栄西や道元とは根本的に異なる思想を有していたと言い得るであろう。この点については、新たに発見された『一字訣』の読解とともに、覺晏の思想についての考察を深めていきたい。

さらに、「達磨宗新出史料『心根決疑章』と仏地房覺晏」（『駒澤大学仏教学部論集』51、2020

年)「国文学研究資料館所蔵『心根決疑章』について」(『駒澤大學佛教學部研究紀要』80、2022年3月)「般若房法印大歇了心について」(『東アジア仏教研究』20、2022年)をはじめ多くの達磨宗関連研究を蓄積することができた。これらは中世日本禅宗研究の進展に資するものであり、このような研究蓄積は、本研究の大きな成果と言えるだろう。

また、宗教誌『中外日報』誌面と『中世禅の知』(末木文美士監修、臨川書店 2021年7月)において「達磨宗新出史料『心根決疑章』の発見」を掲載して、広く学問成果を世に公表することができた。さらに、駒澤大学 2022年度後期公開講座「鎌倉時代の禅宗 達磨宗について」(禅の歴史の諸相)と題して講演を行うなど広く一般にその成果を発信することができた。

さらに、本研究によって仏地房覚晏の『一字訣』を新たに発見できたことは極めて大きな成果である。本発見は、覚晏や当時の達磨宗、ならびに鎌倉時代の初期禅宗の状況をより明らかにするものと思われる。その史料的な位置づけに関しては、館隆志「達磨宗新出史料・仏地房覚晏『一字訣』の発見とその意義」(『印度学仏教学研究』71-1、2022年)と題して公表した。

内容を含めた総合的な研究は、JSPS 科研費 JP23K00053「新出史料『一字訣』の読解を中心とした仏地房覚晏と達磨宗の総合的研究」(基盤研究 C、代表者：館隆志、分担者：吉村誠、師茂樹、山口弘江、柳幹康)において進める予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 17件）

| | |
|---------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名 館隆志, 吉村誠, 師茂樹, 山口弘江, 柳幹康 | 4. 巻 52 |
| 2. 論文標題 達磨宗・仏地房覺曼『心根決疑章』訓註(上) | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 駒澤大学仏教学部論集 | 6. 最初と最後の頁 127-156 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名 館隆志 | 4. 巻 52 |
| 2. 論文標題 道元と喫茶文化 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 駒澤大学仏教学部論集 | 6. 最初と最後の頁 157-190 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 館隆志 | 4. 巻 8 |
| 2. 論文標題 禅宗における茶の受容と継承 禅と茶を考える | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 国際禅研究 = INTERNATIONAL ZEN STUDIES | 6. 最初と最後の頁 287-304 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34428/00013060 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 館隆志 | 4. 巻 8 |
| 2. 論文標題 兼修禅とは何か | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 国際禅研究 = INTERNATIONAL ZEN STUDIES | 6. 最初と最後の頁 105-114 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34428/00013047 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 館隆志 | 4. 巻 80 |
| 2. 論文標題 文学研究資料館所蔵『心根決疑章』について | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 駒澤大學佛教學部研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 109-130 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 館隆志 | 4. 巻 100 |
| 2. 論文標題 円覚寺仏日庵所蔵『展鉢式』について | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 禅学研究 | 6. 最初と最後の頁 305-336 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 館隆志 | 4. 巻 70(2) |
| 2. 論文標題 曹洞宗と臨済宗の五観偈の相違を考える | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 印度學佛教學研究 | 6. 最初と最後の頁 129-134 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 館隆志 | 4. 巻 17 |
| 2. 論文標題 鎌倉期禅僧の喫茶史料集成ならびに訓註 (下三) | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 花園大学国際禅学研究所論叢 | 6. 最初と最後の頁 65- 205 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 吉村誠 | 4. 巻 70 (2) |
| 2. 論文標題 玄奘の心識説と智儼の心識説 『華嚴五十要問答』を中心に | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 印度學佛教學研究 | 6. 最初と最後の頁 786-793 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 柳幹康 | 4. 巻 100 |
| 2. 論文標題 永明延寿「官錢放生」説の成立と変遷 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 禅学研究 | 6. 最初と最後の頁 43-74 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 柳幹康 | 4. 巻 9 |
| 2. 論文標題 白隠の実践体系とその背景 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 国際禅研究 = INTERNATIONAL ZEN STUDIES | 6. 最初と最後の頁 277-332 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 柳幹康 | 4. 巻 8 |
| 2. 論文標題 『宗鏡録』の流布とその背景 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 国際禅研究 = INTERNATIONAL ZEN STUDIES | 6. 最初と最後の頁 65-80 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34428/00013044 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 館隆志 | 4. 巻 51 |
| 2. 論文標題 「達磨宗新出史料『心根決疑章』と仏地房覺晏」 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 駒澤大学仏教学部論集 | 6. 最初と最後の頁 103-126 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 館隆志 | 4. 巻 69-1 |
| 2. 論文標題 「道元が受け継いだ栄西流の儀式について」 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 『印度学仏教学研究』 | 6. 最初と最後の頁 80-85 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 吉村誠 | 4. 巻 69-2 |
| 2. 論文標題 「玄奘三蔵と『西遊記』 孫悟空・猪八戒・沙悟浄のルーツをめぐって」 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 『印度学仏教学研究』 | 6. 最初と最後の頁 198-204 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 柳幹康 | 4. 巻 69-1 |
| 2. 論文標題 「永明延寿の思想・実践における浄土的要素」 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 『印度学仏教学研究』 | 6. 最初と最後の頁 312-305 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------------|
| 1. 著者名 柳幹康 | 4. 巻 32 |
| 2. 論文標題 「教・禅と『宗鏡録』」 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 『駒澤大学禅研究所年報』 | 6. 最初と最後の頁 166(81)-154(93) |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 柳幹康 | 4. 巻 16 |
| 2. 論文標題 「白隠の「邪見邪法」批判と実践観」 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 『花園大学国際禅学研究所論叢』 | 6. 最初と最後の頁 49-70 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計17件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 3件)

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 館隆志 |
| 2. 発表標題 曹洞宗と臨済宗における五観偈の相違について |
| 3. 学会等名 日本印度学仏教学会第72回学術大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名 館隆志 |
| 2. 発表標題 道元の只管打坐を考える |
| 3. 学会等名 駒澤大学大学院仏教学研究会 公開講演会 (招待講演) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|-----------------------------|
| 1. 発表者名 館隆志 |
| 2. 発表標題 禅と鎌倉 禅文化の歴史を踏まえて |
| 3. 学会等名 鎌倉禅研究会（招待講演） |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 柳幹康 |
| 2. 発表標題 永明延寿の一心と律・浄土：唐宋变革期における思想の組み替え |
| 3. 学会等名 東京大学東洋文化研究所2021年度第5回定例研究会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---------------------------|
| 1. 発表者名 柳幹康 |
| 2. 発表標題 永明延寿的浄土実践和思想 |
| 3. 学会等名 南京論壇2021（国際学会） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 柳幹康 |
| 2. 発表標題 永明延寿伝の変遷：「官銭放生」説を中心に |
| 3. 学会等名 東アジア仏教研究会2021年度年次大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 柳幹康 |
| 2. 発表標題 白隠の実践体系とその背景 |
| 3. 学会等名 国際シンポジウム「看話禅の諸相」(国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 柳幹康 |
| 2. 発表標題 永明延寿の立ち位置：時代の転換期における禅の捉えなおし |
| 3. 学会等名 中国社会文化学会2021年度大会シンポジウム「五代・宋代における仏教の展開と伝播」 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 柳幹康 |
| 2. 発表標題 唐末五代的禅宗変遷 |
| 3. 学会等名 第八届漢伝仏教与聖嚴思想国際學術研討会(国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 吉村誠 |
| 2. 発表標題 贊寧『宋高僧伝』に見る唐宋期の教学仏教について |
| 3. 学会等名 中国社会文化学会2021年度大会シンポジウム「五代・宋代における仏教の展開と伝播」 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|------------------------------|
| 1. 発表者名 吉村誠 |
| 2. 発表標題 玄奘の心識説と智儼の心識説 |
| 3. 学会等名 日本印度学仏教学会第72回学術大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 吉村誠 |
| 2. 発表標題 『宋高僧伝』に見る中国唯識学派の展開 |
| 3. 学会等名 龍谷大学世界仏教文化研究センターシンポジウム・唯識仏教（法相教学）の伝来と展開 中国・新羅・日本（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 館隆志 |
| 2. 発表標題 「道元が受け継いだ宋西流の儀式について」 |
| 3. 学会等名 日本印度学仏教学会第71回学術大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 吉村誠 |
| 2. 発表標題 「玄奘三蔵と『西遊記』 孫悟空・猪八戒・沙悟浄のルーツをめぐって」 |
| 3. 学会等名 日本印度学仏教学会第71回学術大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 柳幹康 |
| 2. 発表標題 「永明延寿の思想・実践における浄土的要素」 |
| 3. 学会等名 日本印度学仏教学会第71回学術大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 館隆志 |
| 2. 発表標題 「道元禪師と喫茶文化」 |
| 3. 学会等名 2020年度駒澤大学仏教学会第2回定例研究発表会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 館隆志 |
| 2. 発表標題 「禅と鎌倉 禅とともに歩んだ鎌倉文化」 |
| 3. 学会等名 魅惑の鎌倉・講座シリーズ4（神奈川県・鎌倉芸術館）（招待講演） |
| 4. 発表年 2020年 |

〔図書〕 計4件

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 伊吹敦、土屋太祐、柳幹康、石井修道、原田正俊、館隆志、ダヴァン・ディディエ、古瀬珠水、和田有希子、米田真理子、山村信榮、堀本一繁、末木文美士、亀山隆彦、ラポー・ガエタン、高柳さつき、阿部泰郎、三好俊徳、高橋秀栄 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 臨川書店 | 5. 総ページ数 344 |
| 3. 書名 中世禅の知 | |

| | |
|------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 政道徳門、松竹寛山、横田南嶺、佐々木装堂、館隆志 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 禅文化研究所 | 5. 総ページ数 186 |
| 3. 書名 新 坐禅のすすめ | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 池田鍊太郎、山口弘江、程正、佐藤秀孝、角田泰隆、徳野崇行 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 駒澤大学禅ブランディング事業事務局 | 5. 総ページ数 238 |
| 3. 書名 禅の歴史：曹洞禅の源流を尋ねて | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 桑山正進、佐久間秀範、吉村誠、橘川智昭、師茂樹、ステフェン・デル、袁輪顕量、阿部龍一、肥田路美、荒見泰史、李銘敬、本井牧子、谷口耕生、落合博志、レイチェル・サンダース、近本謙介 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 勉誠出版 | 5. 総ページ数 563 |
| 3. 書名 玄奘三蔵 新たなる玄奘像を求めて | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|---------------------------------|----|
| 研究分担者 | 吉村 誠 (YOSHIMURA Makoto) (60298106) | 駒澤大学・仏教学部・教授 (32617) | |
| 研究分担者 | 師 茂樹 (MORO Shigeki) (70351294) | 花園大学・文学部・教授 (34313) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|---|----|
| 研究分担者 | 山口 弘江 (YAMAGUCHI Hiroe) (20599394) | 駒澤大学・仏教学部・准教授 (32617) | |
| 研究分担者 | 柳 幹康 (YANAGI Mikiyasu) (10779284) | 東京大学・東洋文化研究所・准教授 (12601) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |